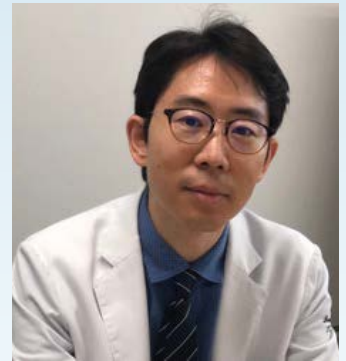




## 羅針盤



本田 哲也  
Tetsuya Honda

浜松医科大学皮膚科学講座 教授

### この皮膚病は食べ物と関係ありますか？

「この皮膚病は食べ物と関係ありますか？」「治すには何を食べたらよいでしょうか？」患者さんから、このような質問を受けた経験は、多くの皮膚科医がもっていることと思います。私の場合、たいていの場合は食べ物との関係はないと判断し「とくに心配しなくてよいですよ」と答えるのですが、皮膚病といったら食べ物が原因、という感覚は患者さんにとってきわめて強いものであることを実感します。

言うまでもなく、食べ物は私たちが生きるうえで必須です。食事を通し三大栄養素である炭水化物、タンパク質、脂質をバランスよくとることで、われわれは正常な生命活動を送ることができます。したがって、これら栄養素が何らかの原因で不足、過剰、あるいはバランス不全になると、生体の恒常性が崩れさまざまな疾患の原因、あるいは背景因子となりえます。

また、特定の食べ物に対してアレルギー反応を獲得してしまった場合は、摂取自体が疾患誘発因子となってしまいます。以上のようなことは医療者でなくとも容易に想像がつくことであり、また食べ物が皮膚の健康に影響を及ぼしうることは、多くの方が日常的にもまさに「肌感覚」で感じられているのだと思います。

しかし、実際にどの食べ物が、どのように皮膚の健康に影響を与えているのか、どのように皮膚疾患の発症に関与しているのか、いざ聞かれると、皮膚科医といえども

なかなか答えられないことも多いのではないのでしょうか。

本特集は、食事が関係しうる皮膚疾患にスポットを当て、最新の栄養学もまじえ、各疾患の臨床像および食事指導法についてご専門の先生に解説いただきました。いずれも実践的な内容が多く含まれており、患者さんからの質問にスムーズに答えられるものと思います。

一方で、取り上げた疾患はいずれも代表的な疾患ではありますが、集めてみると意外に多くの種類があることに気づかされます。これだけあると、私が「とくに心配しなくてよいですよ」と言っている疾患や、原因不明と言われている皮膚疾患のなかにも、もしかしたら実は食事が関係しているものが混じっているのかもしれない。

私自身は、アトピー性皮膚炎や乾癬などの炎症性皮膚疾患の病態形成における食事の影響について、主に食事性脂質の観点からこれまで基礎研究・臨床研究を行ってまいりました。しかし、本特集を編集するにあたり各原稿を拝見して、脂質以外の栄養素の観点からの病態理解も、実臨床においてとても重要であることを再認識いたしました。読者の先生方にも食生活と皮膚疾患との関連について、本特集が知識の整理にお役に立てば幸いです。

また、食生活と皮膚疾患というテーマでの編集機会を与えていただきました編集委員の先生方、お忙しいところ原稿作成を快諾いただいた先生方に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。